

## 事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 30年3月31日

2次評価日（課長等） 30年3月31日

1 事業名	体験工房運営事業	コード	111116
-------	----------	-----	--------

2 担当部課	部等 産業振興部	課等 ブランド推進室	作成者 小林 隆
--------	----------	------------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	文化・芸術の振興
		予算科目	体験工房運営事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	繭の質感や特性を活かし、まゆ人形などの作品を制作することにより、シルクに対する親近感やものづくりの楽しさを体験する場を提供する。			
目的	対象者	市民及び来館者		
	意 図	ものづくりの楽しさの発見、カイコの生態及びシルクおかやの歴史の理解を深める		

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
館内のまゆちゃん工房では、随時体験希望者を受け入れ、まゆ人形やミニ機織りの体験を実施。また、季節や企画展に応じたワークショップを開催した。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まゆ人形作り等ワークショップ 21回</li> <li>・企画展関連ワークショップ 7回</li> <li>・団体ワークショップ 38回</li> <li>うち出前講座 9回</li> <li>・まゆちゃん工房：まゆ人形体験 2, 218件</li> </ul>				
前年度の課題への対応	・受付業務委託先との契約変更により、まゆ工作の事前準備等における協力体制が構築され、職員負担が緩和された。			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	まゆ人形等ワークショップ、出前講座の開催回数			単位	回
実績値	30	9	66		
*指標の説明					
② 成果指標（指標名）	まゆ人形等ワークショップ、出前講座の開催回数			単位	回
目標値	24	30	30		
実績値	30	9	66		
達成度	125.0%	30.0%	220.0%		
*指標の説明	ワークショップ開催日数及び出前講座の開催回数				
*目標値の設定方法の説明	過去3年間の最大値				

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	286,640	200,209	292,233	0
経常経費	286,640	200,209	292,233	
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	1,280,000	160,000	1,200,000	0
正規職員の人数(人)	0.16	0.02	0.15	
③ 合計コスト(①+②)	1,566,640	360,209	1,492,233	0
前年度比		23.0%	414.3%	0.0%
財源	1,566,640	360,209	1,492,233	0
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	52,221	40,023	22,610	
前年度比		76.6%	56.5%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

● 事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

低い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。		0
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。		0
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		0

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標（項目7/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。		0
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 733.3%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 220.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)	
	・団体のまゆ工作の需要があるが、事前準備作業や当日対応する職員数や会場のスペース等の問題がある。	
改善方法	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)	
	・事前準備及び当日対応人員についてはボランティアの導入も視野に検討を進める。会場については、商工会議所の協力を得て実施するとともに、博物館整備計画のなかで検討を進める。	
改善開始時期	平成30年4月	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	30年度より他の事務事業と統合	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	-----------------	-------------------------------------------	---